

1. 地域経済と課題

- (1) 経済諸指標（6月）を見ると①消費者物価指数2.2%（3か月連続2%超え）②うちエネルギー関連は電気代18.0%、ガス代17.1%上昇③さらにモノ4.9%上昇、サービス0.3%下落④企業物価指数9.2%（16か月連続上昇）⑤為替1\$=133.80円（2011.10.31の1\$=75.54円が史上最高）。⑥実質賃金指数1.8%減（5月）。どこに活路を見出すのか難しい。
- (2) あるホテルの駐車場を見ると、プレートNo.「北九州5」「佐賀6」「筑豊1」「鹿児島1」「神戸5」「長崎2」「愛媛2」「水戸1」「品川1」「福岡4」「高松1」「鳥取1」「福井2」「沖縄1」「なにわ2」「福山1」「熊本1」と全国各地から（5/23 18時頃。数字は台数）。原発関係者と思われるが経済効果は大きいですが、それだけではもったいない、観光情報を全国各地に持ち帰って発信してもらおう「観光インフルエンサー」になってもらえないか。
- (3) 佐賀銀行の会社説明（7月21日開催）資料によると①預金残高2兆8,011億円（うち佐賀県内2兆1,820億円、福岡県5,614億円）②貸出金残高2兆1,545億円（うち佐賀県内7,483億円、福岡県7,468億円）。すなわち預金は佐賀県で8割近く集めて、貸出は佐賀と福岡で半々。福岡の市場の大きさが如実に表れている。

2. 経営相談(巡回・窓口)から見える地域経済と課題

- (1) 令和3年度（1年間）の相談支援状況では、巡回760件、窓口3,194件（創業含む）、合計3,954件を行った。前年度比（合計）は1.2%減少ながらもほぼ前年並みの件数で推移。
- (2) 4月から6月までの第1四半期の巡回117件、窓口982件を行った。窓口については、前年比5%増。コロナ施策の事業復活支援金等の対応が多かったのが影響していると思われる。
- (3) 日本政策金融公庫のコロナ特別貸付の申請期限が6月末から9月末までに延長された。コロナ長期化の影響で新規や借換の需要が見込まれる。要件を満たす対象者については利子補給を受けることで当初3年間で実質無利子となる。
- (4) 県6月補正予算の「原油・原材料高緊急対策事業」で価格高騰により収益が悪化している中小事業者に対し、緊急措置として、燃油購入費補助や一時金が交付される。
- (5) コロナ禍で国「再構築補助金」や県「新事業チャレンジ支援補助金」などを活用し、経営・事業の立て直しや新しい事業への挑戦などの動きが活発化している。
- (6) 唐津市が発行するプレミアム商品券『からふるPay』は、大型店以外でしか利用できない専用券があり、小規模店舗での利用も期待できる。券の種類としては電子券と紙券が発行され、希望に応じて購入できる。

3. LOBO 調査(早期景気観測)&中小企業景況調査

(1) LOBO 調査【令和4年7月調査】

業況DIは、改善もコスト増により力強さを欠く。先行きは、物価高に加えて感染再拡大の懸念強まる。

- ・全産業合計の業況DIは、▲17.8（前月比+2.5ポイント）

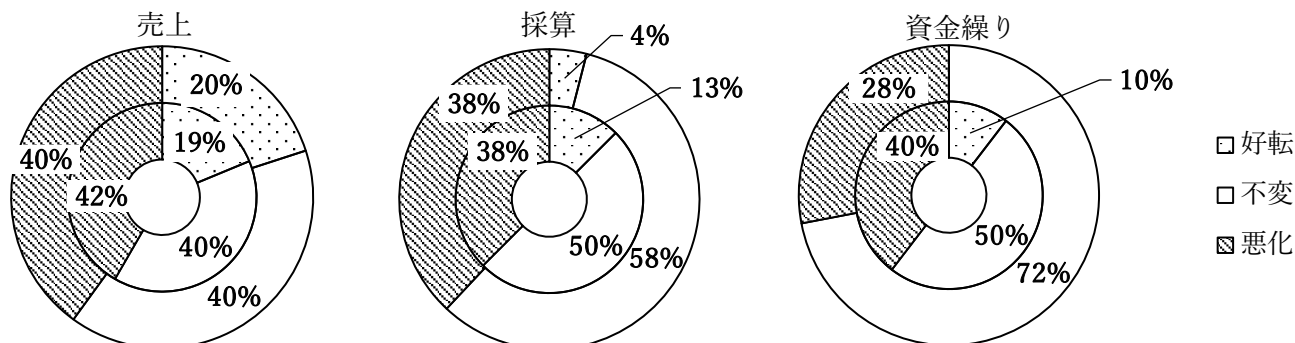
全国：人流の回復とともに、夏物商材が好調だった百貨店などの小売業で業況が改善した。民間の設備投資が堅調に推移した製造業や、小売業・製造業に牽引された卸売業で業況が改善した。一方で、全国的な新規感染者数の増加を受け、飲食・宿泊業で予約キャンセルが出始めたサービス業や、建設資材の高騰や設備機器の納期遅れが続いている建設業は業況が横ばいに留まった。世界的な物流の混乱や資源・原材料価格の高騰、円安、深刻な人手不足に伴う人件費増などのコスト増に歯止めがかからず、企業収益の足かせとなっている。コスト上昇分の価格転嫁も十分に行えない中、中小企業の業況は、改善傾向が続くも力強さを欠く。

九州：業況 DI は悪化。建設業では、民間工事を中心に受注の回復傾向が見られるものの、木材を中心とした資材価格の高騰の影響を受け、採算が悪化した。サービス業では、自治体の需要喚起策等が奏功して宿泊業・娯楽業の売上が増加したが、食料品価格の高騰が足かせとなり、全体として採算が悪化した。新型コロナウイルスの感染拡大により、内食需要が増加する反動で、外食需要が減少しているという声も聞かれた。

(2) 中小企業景況調査【令和4(2022)年4月～6月調査】

円グラフの外側：前年同期（2021年4～6月）と比べた今期（2022年4～6月）の状況

内側：前々年同期（2020年4～6月）と比べた前年同期（2021年4～6月）の状況



直面している経営上の問題点（各業種の最も多かった問題点）

製造業：需要の停滞
 小売業：仕入単価の上昇
 建設業：材料価格の上昇
 サービス業：材料等仕入単価の上昇
 卸売業：仕入単価の上昇
 →原油価格高騰による原材料や建築資材などの価格が上昇しており、製造業と建設業に特に影響を及ぼしている。

4. 唐津の街のトピックス

- 原材料の値上げが企業を苦しめている。「売上げが9億円に対して、約8千万円から1億円の原材料費の値上げが見込まれる。ぎりぎりの価格設定なので値上げをせざるを得ない。」(Q社社長談、6月9日)
- 九州博報堂に本社から異動、唐津に居住。博報堂×銀行のコラボで従来認められなかった分野で特許取得。リモートワークでも実績をあげられる好事例。(詳細はQRコードから⇒)
- KBCの「【良純×宮本】アナウンサーが唐津を勝手に“1分ちよいの早口”で紹介してみた！」がYouTubeでアップされている。7月22日現在12,978回視聴。(詳細はQRコードから⇒)
- 第1回福岡アイランドシティSUP大会が7月10日に開催された。女子2kmでは唐津勢が1位～6位を独占。男子6kmでも川原氏が2位。レース後に一緒に唐津で練習をしたいという申し出も。
- 名護屋城博物館に黄金の茶室が3月に設置された。4～6月の博物館入館者はコロナ前のR元年と比較して148%増。一過性のブームに終わらせない様々な取り組みが期待される。旅行ツアーも組まれている。
- 「Karatsu Seaside Camp 2022 in 玄界灘」が開催された。音楽に合わせて手を振る観客のよろこび、海に向かって大きなブランコ（竹の組み合わせ）に乗る爽快感、唐津の魅力を再発見。(詳細はQRコードから↓)
- 栄町の旧Y医院が更地に、マンション建設計画がある。頼まれて、唐津駅から10分以内のマンションを探して不動産屋を回っても物件がない。駅南の新しい賃貸マンションの入居状況に注目したい。市場のメカニズムで都市のコンパクト化や中心部の活性化につながる動きは歓迎できる。
- 「包装紙の値上がりでおにぎりを値上げします」という張り紙があった。ある和菓子屋では包装紙が全体で15%は値上がりしていると言われた。まさにあらゆる物が値上がりしている。適切な価格転嫁が可能な環境が望まれる。